

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)		授業科目	電気工学	
科目基礎情報							
科目番号	4M34			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位A: 1		
開設学科	産業システム工学科機械・医工学コース			対象学年	4		
開設期	春学期(1st-Q)			週時間数	1st-Q:2		
教科書/教材	教員作成資料						
担当教員	大里 辰希						
到達目標							
・ 直流回路や交流回路の簡単な計算ができる。 ・ 半導体デバイスの動作を説明できる。 ・ 簡単な電子回路の動作を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
電気回路の基礎	直流回路や交流回路の計算ができる		直流回路の計算や抵抗の計算ができる		直流回路や交流回路の計算ができない		
半導体デバイスの動作原理	半導体デバイスの動作を説明し、応用例について説明できる		半導体デバイスの動作原理を説明できる		半導体デバイスの動作原理を説明できない		
トランジスタ増幅回路の基礎	直流等価回路・交流信号等価回路を導いて、増幅回路の設計ができる		簡単なトランジスタ増幅回路の動作原理について説明できる		簡単なトランジスタ増幅回路の動作原理について説明できない		
学科の到達目標項目との関係							
ディプロマポリシー DP2 ◎ ディプロマポリシー DP3 ○							
教育方法等							
概要	【開講学期】春学期 本コースの目標として、専門知識を学び、応用分野に関する問題解決に応用できることより、機械工学と密接に関連するエレクトロニクス分野を学習する。直流回路、交流回路、ダイオードやトランジスタなどの半導体素子の動作原理、増幅回路等の電気回路に関する基礎的知識を習得することを目標とする。						
授業の進め方・方法	直流回路、交流回路の基本的な電気回路、半導体デバイス、簡単な電子回路について学ぶ。興味を抱かせるように実際のデバイスを例にとり、理論と現象を対応づけながら、学習を進めていく。 総合評価は100点満点として、60点以上を合格とする。答えは採点後返却し、達成度を伝達する。平常の課題・演習等で30%、期末の到達度テストの得点を70%にて評価する。補充試験の場合、最大60点とする。						
注意点	予備知識が少なく、多彩な内容なので、授業中に理解することが重要である。演習を取り入れ、学習意欲を増進する授業を展開する。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	電気基礎、直流回路の復習		電気基礎、直流回路の基礎について説明できる		
		2週	交流回路、インピーダンス、交流電力		交流回路の基礎、インピーダンスについて説明できる		
		3週	ダイオード、トランジスタ、半導体物性、半導体物質、pn接合		半導体物性の基礎、pn接合の原理について理解し説明できる		
		4週	ダイオード、トランジスタ、半導体物性、半導体物質、pn接合		半導体素子の基礎、各種半導体素子の原理について理解し説明できる		
		5週	トランジスタのスイッチ作用と増幅作用		トランジスタの基本的な動作について説明できる		
		6週	①トランジスタのスイッチ作用と増幅作用 ②トランジスタ増幅回路		トランジスタのスイッチ作用と増幅作用について説明できる		
		7週	トランジスタ増幅回路		トランジスタ増幅回路の動作原理について説明できる		
		8週	到達度試験 (答案返却とまとめ)				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
		試験	小テスト、演習、レポート		合計		
総合評価割合		70	30		100		
基礎的能力		20	10		30		
専門的能力		50	20		70		
分野横断的能力		0	0		0		